

＜第4回 冬のたんけんの報告＞

期 日：平成29年2月4日（土）～5日（日） 1泊2日

参加者：29名（2日目：24名）

	男	女	合計
小学1年	4	2	6
小学2年	7	5	12
小学3年	8	3	11
合計	19	10	29

欠席：6名（小1女2名、小2男3名、小3女1名）

1日目のみ参加：5名（小1男1名、小1女1名、小2男2名、小3女1名）

※学校の学習発表会やカルタ大会が5日（日）にあったため。

ボランティアスタッフ：男性 9名・女性 3名 合計 12名

日程

2月4日 土	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	(21:30就寝)
					受付 はじまりのつどい	昼食 バス移動 (レストラン)			「雪遊びをしよう 冬のたんけん 場所…マキノ高原 スキー場」		入浴・バス移動	夕食 (レストラン)		キャンドルのつどい	ふりかえり 就寝準備	就寝 (本館宿泊)	就寝 (本館宿泊)
2月5日 日	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15							
	起床	朝食 つどい (レストラン)			(海の学習棟) 調理室	さよならハイティー	たんけんのまとめ	保護者報告会	おわりのつどい	解散							

企画のポイント

季節に合わせた活動ということで、雪遊びを取り入れた。当施設の周辺では、ふだんは雪が積もることはなく、降ったとしても数日でなくなってしまう。周辺地域には、スキー場はいくつかあるが、雪遊びができる場所として、「マキノ高原マキノスキー場」に行こうとした。当施設から車で1時間程度の滋賀県高島市マキノ市にある。マキノスキー場は、リフトを撤去し、夏場はキャンプ場、冬は子供向けのスキー場やスノーシューハイキングコースを整備し、年間を通した自然体験や学校などの体験学習の場としての充実にも力を入れている。年間約35万人の方が利用しているとのことである。こうした素晴らしい

しい場所があることから、ぜひ利用したいと思い、選定した。また、温泉施設もあることから、雪遊びをした後、冷えた体を温めたり、着替えをしたりできることから、雪遊び体験後に、入浴して帰ることとした。

2日目は、さよならパーティーとして、食事作りを午前中かけて行うこととした。一緒に活動してきた仲間と、これまでに何度も行ってきた食事作りをすることで、楽しい思い出をふりかえるとともに、食事作りに対する自信を持ってもらいたいと考えた。メニューは、当施設での活動プログラムである「海水を使ったうどん作り」と「豚汁」にした。秋は、自分たちで収穫した野菜を使って食事作りをしていたので、今回についてもどこかで自然と関係させたいと考えた。海水を汲んできて、それを使いうどんを作ることで、

また、保護者報告会も計画し、これまでの活動の写真やエピソードを伝え、本事業への理解を深めてもらえる場を設けた。保護者も参加者と一緒に食事作りに参加してもらう案も検討したが、参加者同士の関係を深めることができないと考え、保護者には、報告会に参加してもらうだけとした。保護者の理解を深めるためには、参加している子どもたちと同じ活動をすることも効果的であると考えられるが、次年度以降に再度検討したい。

※マキノ高原マキノスキー場 (<http://www.makinokougen.co.jp/>)

運営のポイント

雪遊びについては、マキノスキー場のメインのそり滑りゲレンデを利用せず、あえて森の中にあるキャンプサイトを利用した。雪が降り積もっているだけの森の中で、思う存分、雪と遊んでもらいたいと考えた。当施設にあった「かんじき」も活用し、雪の中を歩くという体験から始め、森の中を散策しながら、遊べる場所を見つけ、そこで活動をするというプログラムを計画した。

2日目には、4回のまとめのとして、参加者一人一人に「一番の心に残っていること」と「これからチャレンジしてみたいこと」の2つを発表してもらう時間を設けた。各班の仲間やボランティアのお兄さん、お姉さん、または保護者の方に向けて、発表してもらうことで、4回を振り返るとともに、ここで体験したことをこれからにつなげられるような意識付けの機会となることを期待した。参加者が昼食後に発表準備をしている間に、保護者報告会を行い、その後、発表のタイミングに合わせて、保護者にも会場に入ってもらい、発表する様子を見てもらうようにした。

安全管理のポイント

冬の活動は、服装や持ち物が多く、また、手袋や長靴など必要なものが準備されていないと十分な活動ができない。また、マキノスキー場では、スキーウエアのレンタルを行っている店舗がないこともあります。雪遊びの経験がなく、こうした準備物を持っていない参加者もいるかもしれません。そこで、参加者と保護者に向けた案内をできる限り丁寧に書くようにし、家庭にあるものでも対応できることを伝えた。また、活動後に、温泉施設での入浴があることから、あらかじめその準備もしておいてもらうように伝えた。

以下、案内書の抜粋

今回は、雪遊びの活動となりますので、持ち物が増えることをご了承ください。ウエアのレンタルも検討しましたが、マキノ高原スキー場近隣でウエアのレンタルショップがないことや、半日の活動（3時間程度の活動）となりますので、ご家庭にあるものを使用し

て活動を行うこととしたいと思います。お子様の健康状態に十分注意を払いながら、厚手の服やウインドブレーカーと雨合羽などで活動をし、活動後は、入浴して体を温め、着替えてから、帰りたいと思います。

□雪遊び用の服装（ズボンは必ず濡れるので、水がしみこみにくいものを準備ください）

- ・スキーウエア（なければ、ウインドブレーカーに雨合羽などを重ねる）
- ・手袋（水分の浸透が防げるようなものが望ましい、例：軍手とゴム手袋の組合せ）
- ・スノーブーツや長靴（長靴の場合は、厚手の靴下を履くとよい）
- ・帽子（ニット帽など耳まで隠れるものが望ましい）
- ・濡れた物を入れる袋（少し大きめのビニール袋があるとよい）

□サブザック（中に、タオル2枚と着替え、下着、靴下を1セット入れてください。）

健康保険証のコピー  受付で確認し、お子様のサブザックに入れます。
入浴料350円

- 上靴（自然の家の館内で履くもの）
 - スノーブーツや長靴以外の靴（自然の家での外用）
 - 防寒着（スキーウエア以外の防寒具（スキーウエアが濡れた場合の代用））
 - 着替え（サブザック以外で1着程度、あたたかい服装をお願いします。）
 - タオル（サブザック以外で1枚程度）
 - 筆記用具 □水筒
 - 寝る時の服装
 - その他必要と考えられるもの（常備薬等）
 - エプロン（2日目の調理で使います）
- ※ 持ち物には、名前を記入してください。特に手袋、下着類は、間違えやすいので忘れないように記入してください。
- ※ ぜひ、お子様と一緒に荷物を準備してください。

また、当日の雪遊びについては、かんじきを付けるところまで全員で行い、見晴らしのよい広場まで少し雪の中を歩き、参加者の活動エリアを取り囲むように職員やボランティアスタッフを配置し、思い思いに雪遊びができるようにした。山の斜面に上り、そり滑りをはじめる子どもたちがいたが、勢いがつきすぎて、下にいる子とぶつかりそうになったり、誤って上からそりだけを落としてしまう子がいたりと、一時危険な状態になってしまった。そのため、そりで滑ることはやめて、体で滑るようにし、上るルートと滑るルートを分け、斜面の上と下にボランティアスタッフについてもらい、滑り始めるタイミングを調整してもらうようにした。どのような場所で、どのような活動をするのかについては、事前に詳細な計画を立てていなかったが、その場の状況に合わせて、安全に活動をすることを心掛けて実施した。

実際の様子

<1日目>



レクレーションで楽しくスタート！



メタセコイア並木を通って、スキー場へ



かんじきってどうつけるのかな？



できた！さあ、歩いてみよう！



いい斜面があった。そりで滑ろう。



体で滑るのは、もっと楽しい。



手袋や長靴、びしょびしょになったけど、雪の森も楽しかったね。

<2日目>



海水をコーヒーフィルターでろ過



うどんをこねはじめるぞ。



包丁の使い方もうまくなったね。



伸ばして切る、難しいけど楽しい。



やっとできた！豚汁うどん！



かなり太いけど、それがまたおいしい。



ちょっと緊張するけど、発表します。



保護者の方にも聞いてもらいました。



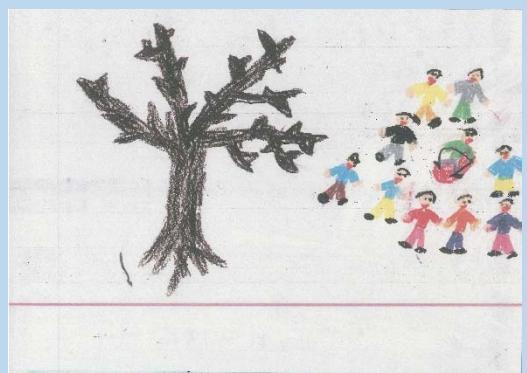
たんけん隊の認定証をもらったよ。



年間4回のキャンプ、楽しかったかな。

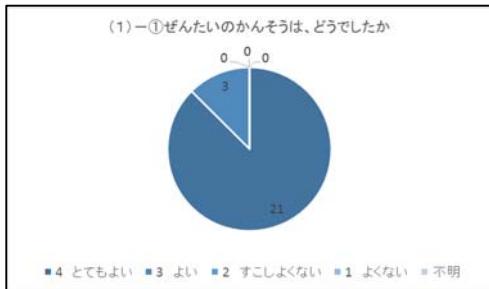
第4回のふりかえりの絵

雪遊びをしている様子を書いている子が多かった。雪の中で、思い思いに遊んだことを描いていた。1日目の夜に行ったキャンドルのつどいでは、ボランティアスタッフが中心になってゲームをし、楽しい時間を過ごせた。また、さよならパーティーでは、食卓を囲んで、仲間たちと笑顔で話しながら、食事をしている姿が見られた。このような絵を描いている子もいた。ほとんどの絵に共通していたのが、複数の人が描かれていることであった。これまでに様々な活動を仲間とともに経験してきて、他の人に対する関心が高まったり、仲間との人間関係が深またりしていることが表れているのではないかと考えられる。自然の中で、仲間と一緒にチャレンジすることの楽しさや面白さを感じてもらえたとしたら、非常にうれしいことである。また、左下の絵に描かれているように、「ありがとう」という感謝の気持ちを絵に表している子もいたことも、非常にうれしいことである。



事業アンケート

(1) ぜんたいのかんそうはどうでしたか。



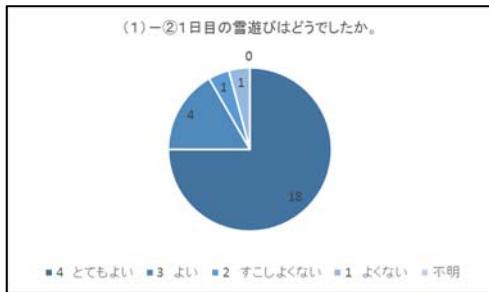
○このなかで一ばんたのしいきゃんぶでした。

○みんなできょう力できてよかったです。

○リーダーさんのまとめ方がよかったです。

よかったですと答えた参加者が多かったです。最後の回であったが、欠席や途中での帰宅が多く、3名しかいない班もあったが、ボランティアスタッフと一緒に笑顔で活動している様子がみられた。

(2) 1日目の雪遊びはどうでしたか。



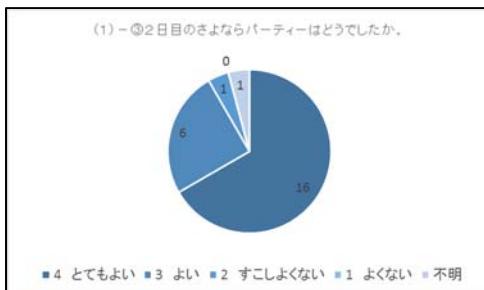
○すこしながらぐつに雪が入ったけど、楽しかった。

○もっとあそびたかった。

●つめたかった。

積雪量も多く、天気もよかったです。足元の雪対策が十分にアナウンスできておらず、ほとんどの子が長靴の中が濡れてしまっていた。雪の入らない工夫をすることで、もっと充実した活動ができる。

(3) 2日目のさよならパーティーはどうでしたか。



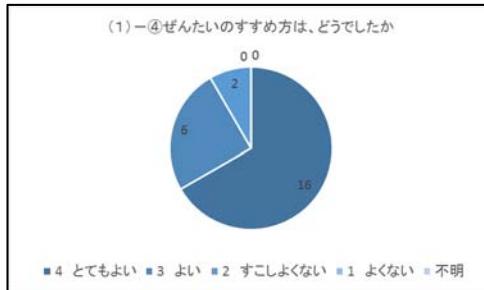
○ごはんを作ったのが楽しかった。

○おなかいっぱいいたべれてよかったです。

○うどんがおいしかった。

繰り返し行ってきた調理については、多くの参加者が楽しさを感じてもらえるようになったと思う。分量も難易度も、ちょうどよかったです。

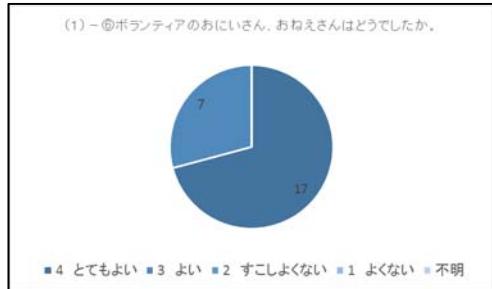
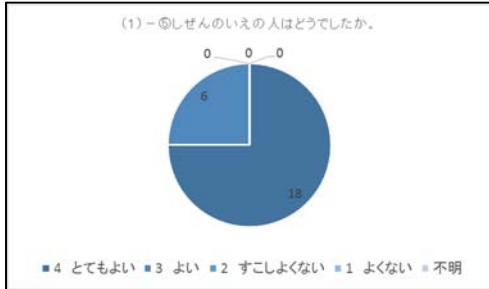
(4) 全体のすすめはどうでしたか。



よかったですとの回答が多かったです。時間にゆとりを持って計画をしていたため、スキー場の出発が30分程度遅れたが、それ以降の活動には支障がなかった。マキノスキー場で、フェスティバルが開催されていたために、温泉施設が混み合っており、時間がかかることになった。2日目については、班の人数が、ボランティアスタッフを含め、5名

～10名と差があったため、出来上がりに差が出てしまった。全員そろって食べはじめると、待つ時間が長い班もあり、せっかくのうどんがのびてしまっていた。班の人数の差があることへの配慮も検討すべきであった。例えば、さよならパーティーとしているので、会場の飾りつけなども行ってもよかったです。

(5) しぜんのいえの人、ボランティアのおにいさん、おねえさんはどうでしたか。



参加者からのスタッフの評価は、年間を通して、高かった。今回は、本事業に初めて参加するボランティアスタッフが多かったが、事業後は、「子どもたちから積極的に関わってきてくれた。」、「子どもたちの仲がよく、一緒に楽しく活動できた。」などの声も聞かれ、4回を通してできていた子どもたちの人間関係があったことで、今回から参加のボランティアスタッフもやりやすかったのだろう。

本来は、年間を通して、同じ班に同じボランティアスタッフがついてくれることが望ましいと考えていた。1つ班は、4回とも同じボランティアスタッフがついてくれたために、子どもたちの成長が見て取ることができ、とても充実感があったとの感想を話してくれた。様々なスタッフとの関わりが、子どもたちにとってもよい刺激となった面もあり、どちらが良いとは言えないと思う。今後もボランティアスタッフが本事業にとっては欠かすことのできない人材であるため、一緒になって活動を進めていきたい。

成果と課題

- 雪遊び体験は、ここ数年当施設では実施しておらず、スタッフにとっても経験が少ない体験であったが、無事に終えることができた。プログラムの内容は、かんじきをつけて雪の中で遊ぶというシンプルなものとしたことやマキノスキー場の整った環境のおかげで、無事に終えることができた。当施設から1時間と少し遠い場所ではあるが、近隣の施設でこうした雪とふれあえる施設があることは、活動の幅の広げることにもつながると感じている。当施設の利用者にも、近隣にこうした施設があることを伝え、冬季の利用者増や活動プログラムの充実につなげられるようにしたい。
- 保護者に直接参加者の様子を伝えらえる機会として、保護者報告会を設けたが、18名の参加者の保護者に集まっていたことができた。また、報告会後には、参加者の発表も見ていただき、事業での参加者の様子を感じてもらうことができたと感じている。事業の写真については、フェイスブックやブログにはアップしていたが、枚数が限られていたことから、この機会に見ていただこうと写真を掲示した。保護者も、低学年の子どもたちが家族以外の人と過ごす機会は、貴重な機会として受け止めていただいている。その様子を伝える機会については、今後も継続して行っていきたい。
- 雪遊びに対する準備不足があった。ほとんどの子が、かんじきが取れて、長靴の中に雪が入ってしまい、足が濡れてしまっていた。かんじきが取れないような結び方をきちんと伝えたり、長靴の中に雪が入らない工夫をしておく必要があったと感じている。短時の活動であったために、支障はなかったが、例えば、今後1日雪の中で活動をするプログラムを考えるのであれば、十分な備えをしておくことが求められる。
- まとめの発表の機会を設けたが、班によっては、なかなか発言ができない子もいたりと

発表させるということに苦労していたようであった。班ごとに同じ班のメンバーに向かって発表するようにしたが、時間を持って、全員が全員に向けて、何かを発表する機会があってもいいのではないかと感じた。また、各班で、模造紙に大きく書いてもらいそれをもとに発表するなどの工夫もあってよかったですと感じている。本事業の大きなプログラム作りにもよるが、たんけん隊として、体験にとどまらず、体験したことを個人の絵以外にも、何らかの形として残すことも今後検討していきたい。